

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	15006
課題名	人工膝関節置換手術の治療成績向上を目指した手術手技確立のための臨床研究
研究期間	西暦 2015年 5月 22日 ～ 平成 32年 4月 30日
利用する情報、検体	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：カルテ記載内容、画像） <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（ ）
	※以下の期間に収集した情報、検体が対象となります 西暦 2009年 7月 3日 ～ 西暦 2018年 4月 30日
研究の意義、目的	<p>人工膝関節置換術（TKA）は 50 年の歴史を有する確立した手術治療法として世界中に普及してきました。しかし近年、術後の患者満足度は約 80%に過ぎないことが報告されています。日本人の TKA 術後患者満足度に最も影響を与える二大因子として、下肢のアライメント（O 脚や X 脚）と可動域が指摘されています。これらは術中の関節ギャップ形状（バランスとギャップ長）と密接に関連していますが、術中の関節ギャップ形状は術者の主観的評価に依存していたため術後成績への影響を定量的に検討することは困難でした。私達は、術中の関節ギャップ形状を定量的な客観的評価を行うための術中支援器具を使用しデータを集積してきました。本研究の目的は、術前後の膝の状態を医療者側と患者側の両側の視点から評価するとともに、術中の定量的な関節ギャップ形状とを総合的に評価する事によってより良い手術手技を確立する事にあります。</p>
研究の方法	<p>通常診療で得られた情報（診療録内容、画像）を用いて研究を行いますので、改めて患者さんに協力をお願いする検査などはありません。</p> <p>評価項目：術前後の膝可動域、医療者立脚型膝機能評価（Knee score）、患者立脚型膝機能評価（Knee injury osteoarthritis score）、X 線、CT。術中の関節ギャップ計測値。</p> <p>以上の評価項目を総合的に解析し、術中の関節ギャップ形状と術前後の膝機能との関連性を明らかにし、患者さん個々人に応じたより良い手術方法を確立していきます。</p>
その他	<p>診療情報を本研究に使用する事を望まれない患者様はお問い合わせください。診療情報の利用を拒否されても、治療上患者さんの不利益になる事はありません。</p>
個人情報について	<p>利用する情報、検体からは、お名前や住所など、個人が特定できる情報は削除して取り扱いますので、個人情報が外部に漏えいすることはありません。研究成果発表（学会発表、学術論文への投稿）の際にも、個人が特定できる情報は利用しません。</p>
問い合わせ等の窓口	<p>所属：整形外科 氏名：能地 仁 電話番号：0166-68-2512（整形外科科学講座）</p>